

科目名	教育の方法と技術(情報通信技術の活用含む)			担当教員	林 一真
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3EPG203
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、教育方法や教育の情報化に資する技能を演習形式で指導する。				
到達目標及びテーマ	本格的なAI時代、デジタル時代に突入した社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な現代的な教育の方法、技術、情報通信技術及びデジタル教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。				
授業の概要	本講義では、まず近代からの教育方法の変遷の歴史を振り返り、さらにこれからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、指導案の作成や模擬授業を通して、教科等の目的に応じた授業技術を身につける。また、GIGAスクール構想にともなう授業改善、個別最適な学び、情報機器やデジタル教材の開発と活用、情報活用能力（情報機器の操作、プログラミング、情報モラル、デジタル・シティズンシップを含む）の育成における教育方法を理解する。				

授業計画					
第1回	オリエンテーション：「教える教育から環境による教育」の考え方の理解－地域、家庭、場所（学校）、空間（教室）、テクノロジー、学友、カリキュラム、教師				
第2回	教育方法の基礎概論（１）：幼児教育とフレーベルの恩物、遊びと学び、遊びと仕事、創造的思考力の評価				
第3回	教育方法の基礎概論（２）：モンテッソーリ教育、シュタイナー教育、イェナプラン教育、レッジョ・エミリア教育、ドルトンプラン教育、フレネ教育、サドベリー教育				
第4回	教育方法の基礎概論（３）：実質陶冶と形式陶冶、四段階・五段階教育法、合科学習、課題解決学習、発見学習、プログラム学習、完全習得学習、有意味受容学習、バズ学習、ジグソー学習、KJ法、MD法、反転学習				
第5回	教育方法の基礎概論（４）：デューイ-キルパトリックのプロジェクト・メソッド、ピアジェ- ヴィゴツキー-バパートの構成主義・社会的構成主義と構築主義、ブルームの教育目標分類（改訂版タキノミー）と学習評価（ルーブリック等）				
第6回	前半のまとめ：改訂版タキノミー、及び、学習評価、社会的構成主義の理念を反映した単元指導計画とジグソー法の学習活動展開案を作成する。				
第7回	「教育の情報化」に関して、文部科学省やその他の教育機関の資料や映像からわが国の現状を調べ、「教育の情報化」にかかる政策（GIGAスクール構想、学校教育DX）について、その背景やねらいについて理解する。				
第8回	ICT環境と教育方法：デジタル教科書、デジタル教材、大型表示装置、書画カメラ、情報端末（PC,タブレット等）、人工知能の効果的な活用				
第9回	1人1台情報端末を活用した対面授業の方法（１）：一斉指導（授業・学習支援アプリの活用等）とグループ活動（小学校もしくは中学校の実際の授業の参観を含む）				
第10回	1人1台情報端末を活用した対面授業の方法（２）：個別最適な学び（AIの活用等）				
第11回	NHK for Schoolをはじめとした学校放送番組の映像から切り出した動画クリップや各種資料映像を視聴し、授業の技術（個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学び、特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援等）や授業における情報通信技術の効果的な活用について理解する。				
第12回	情報活用能力について、基礎的な指導法や情報通信機器の基本的な操作（キーボード入力等を含む）を身に付けさせるため、Scratch3.0を用いたプログラミング（スプライトの動き、正多角形の描画等）を体験する。				
第13回	社会的構成主義の実践：情報活用能力の育成と情報モラル、デジタル・シティズンシップ、メディア情報リテラシー				
第14回	オンライン教育の方法：リアルタイム、オンデマンド、ハイブリッド、遠隔合同学習				
第15回	講義内テスト：第6回の前半のまとめで作成した単元指導計画や学習活動案、教材案を1人1台情報端末を活用した学びに改変し、模擬授業を行う。				

事前学修	2時間	本講義では、シラバスの内容にしたがってノートにまとめたり、指導案や教材を作成したり、プログラム実習を行ったりする。事前学修として、文部科学省の学習指導要領や各種報告書などに目を通したり、プログラミングの操作方
------	-----	--

		法を事前に練習しておく。
事後学修	2時間	毎講義後に授業の振り返りとしてミニレポートを課す。講義で作成した指導案、教材、プログラム等の学習成果物は、回収して評価する。 自身の学びを深めるために、毎回の講義のテーマごとに、自宅でWEBや資料などを用いて自己探究できるとよい。特に、講義で得られた知見をPC上でまとめ、今後に生かせる形にしておく。
フィードバックの方法	必要に応じて、授業中に課したレポート課題等は、リフレクションを返す。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		70%	作成したミニレポートや教材、指導案などの教育的価値
上記以外の試験・平常点評価		30%	講義内模擬授業（テストを兼ねる）
定期試験		0%	
補足事項	・必ず毎時間ノートパソコンが必要となる。しっかり充電をした上で持参すること。 ・授業開始時刻と提出期限は厳しく対処する。 ・公欠を除く、「5回以上の欠席」の場合は失格となる。公欠の場合は、その旨をメールで伝えた上で公欠届けを提出すること。 ・代替課題はメールで申し出のあった場合に対応する。代替課題を提出すると成績に反映するが、出席扱いにはしない。 ・毎時間のミニレポートは一定数（授業内で詳細を説明）の提出ができない場合は不可とする。 ・本講義は定期テストを行わないが、授業案か最終レポートのどちらかを課す。これらは、最終テストを兼ねることから、未提出は不可とする。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	文部科学省StDX Style 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29 年 3 月告示、内閣府） 『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示,文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示,文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示,文部科学省）			

科目名	教育の方法と技術(情報通信技術の活用含む)			担当教員	長谷川 信	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED3EPG203
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	これからの社会を担う子供達に求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
授業の概要	社会的背景の変化や急速な技術の発展により、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてICTの活用が求められている。本授業では、ICTを活用した教材研究および学習活動の検討をするとともに、ICTを効果的に活用した授業を設計して発表する。PCの操作、オフィス系ソフトウェアの利用方法は事前に習得しておくこと。					

授業計画	
第1回	教育方法の基礎理論と歴史
第2回	「教育の情報化」と学習指導要領
第3回	ICT活用の意義と理論
第4回	学習指導と指導技術
第5回	ICTの効果的な活用と指導法
第6回	情報収集と授業設計
第7回	教材研究の意味と方法
第8回	協働学習と児童生徒によるICT活用
第9回	児童生徒のICT活用力と学習指導
第10回	教育・学習履歴の分析と支援
第11回	サイバーリスクと情報モラル指導
第12回	遠隔・オンライン教育の意義と活用
第13回	ICTを活用した授業の設計(1) 授業案、教材作成
第14回	ICTを活用した授業の設計(2) グループ討議、改善
第15回	ICTを活用した授業の発表

事前学修		学習指導要領および解説書で情報教育および教科指導でのICT活用の事例を確認する。また、ICTを活用した授業例を調査し、教員による教材および教材の活用場面、児童生徒の活用場面と授業のねらいを確認する。その際、各単元の目標、学習内容、育てる能力に留意すること。
事後学修		授業の成果を確認・整理してまとめる。また、各指導場面でのICT活用を考えるポイントを確認・整理してまとめる。
フィードバックの方法	課題等を回収した際は次の講義にて解説を実施する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	100%	各回に小テスト、レポートを実施。各回の完成文書 を評価。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	受講には大学の案内に従ったWindowsパソコンを持参してください(*1)。パソコンの利用に関する不明点は情報センターに問い合わせてください。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	授業に必要な資料を配布する。事前に指示する資料等を読んでおくこと。 「中学校学習指導要領」文部科学省,「高等学校学習指導要領」文部科学省, 学習指導要領「生きる力」：文部科学省「 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm 」 教育の情報化の推進：文部科学省「 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm 」			